

# 月刊 一緒にNIE

@しずおが

第1土曜掲載

●フックシート利用できます 「静岡新聞NIE」ホームページ [www.at-s.com/bloss/ni](http://www.at-s.com/bloss/ni) に本紙記事を使ったNIEフックシートを学年や教科ごとに掲載しています。無料でダウンロードでき、コピーして授業で活用することも可能です。使い方などの問い合わせは静岡新聞社読者プロモーション局読者部(電054(284)89984)へ。

教育に新聞を活用する取り組みを展開する県NIE推進協議会(安倍徹会長)はこのほど、2021年度NIE実践報告会を静岡市駿河区の静岡新聞放送会館で開いた。実践指定校として2、3年間活動してきた6校の教諭らを取り組み内容や成果、課題を発表した。各校の実施概要を紹介する後半の今回は三島南中、掛川桜が丘中、清水特別支援学校高等部(所属校は3月時点)。(社会部・中川琳)

## 実践校 成果と課題

清水特別支援学校  
高等部

川上健治教諭

松原悠馬教諭

知的障害がある児童・生徒が在籍し、高等部を対象に実践に取り組んだ。新聞に親しみ、情報を収集、活用する力を身に付けて、取捨選択して生活に生かすことができることを目的とした。

記事の感想を書くほかに、



## 根拠持って意見を伝える

4コマ漫画で場面や内容を読み取る活動も行った。「修学旅行の行き先は沖繩か、県内か」をテーマにしたディベートを実施。コロナ禍を踏まえて相手が納得する情報を新聞などから収集した。持続可能な開発目標(SDGs)に関する記事を探して目標と

に分類し、達成のためにできる行動を考えた。

根拠を持って意見を伝えたり、写真から内容を想像したりするなどの変化が生徒にあった。一方で、障害の特性上、実年齢と学習段階が異なり、一般紙では理解が難しいという課題もある。

三島南中

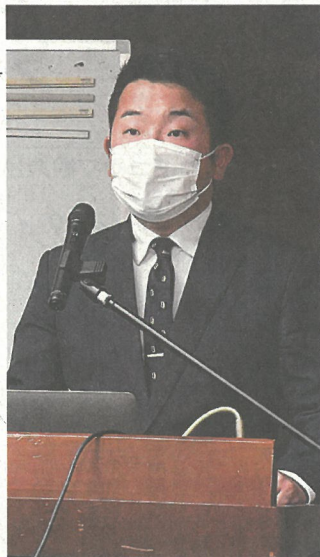
野口 厚校長

情報通信技術(ICT)の急激な発達によって、信頼性の低い情報を含めて情報過多の時代になった。真の情報リテラシーの向上を目標と定めた。新聞を購読している家庭は3割で、読むスキルを身に付けることから始めた。

## 真の情報リテラシー向上

の社会的責任を学んだ。

次第に生徒が、地元の話題や政治に関する記事に目を向けて意見を交わすようになった。本校はGIGAスクールに指定され、端末で授業を行っている。デジタルと新聞というアナログの融合でさらに楽しい学びにつながるだろう。



平均を上回る成果が得られた。生徒にとって、新聞が情報を得るツールとして根付いたことを実感した。これまでのNIEの実践は国語や社会など特定の教科に偏っていたが、本校では全教科での新聞活用を目指した。生徒の関心を高めるために導入として記事を使うだけでなく、単元全体を見直し、問題解決の場面で活用できるよう授業を組み立てた。一方で、実践例が少ない音楽などでは適切に新聞を活用できなかった。今後、教材研究を深める必要がある。

## 全教科で記事活用に挑戦

情報を正しく読み、選択する能力の育成を目標に、毎週木曜を「NIEの日」として読解力の向上を図った。生徒は記事から筆者の主張を読み取り自分の考えを書いた。学力テストで「読むことに関する問題」の正答率が県や全国の

研究を深める必要がある。

掛川桜が丘中

石神克海教諭